

ファッションモデルのやせ過ぎ傾向とその影響

研究学部 世界学科 1 回生

京大 太郎

Abstract: ファッションモデルのやせ過ぎ傾向が若い女性によく影響を与えているという議論が世界で起きている。日本での身近な実態を調べるために、女子大学生の肥満意識と他者の体型への羨望意識を調査するアンケートを行った。その結果、女子大学生は BMI 値 18 を肥満の判定基準として意識する傾向が強く、肥満意識およびやせへの羨望意識に低からぬ相関関係が観察された。18 という BMI 値は各国のファッション業界での規制の基準値である。日本人モデルの BMI 値は 18 以下の範囲内に収まり、女子大学生の体重への意識はファッションモデルから強い影響を受けている傾向が明らかになった。

Key Words: ファッションモデル、やせ過ぎ、女子大学生、BMI 指数、肥満意識

TEXT MANUSCRIPT

1. はじめに

今日のファッション業界では極端に細身の女性ファッションモデルが多数活躍している。ファッションモデルは、ファッションブランドの提供する衣服や装飾品を身に付けて広告やファッション誌、ファッションショーに出演することを職業とし、ブランドイメージを伝える役割を果たしている。総じて細身であることが求められ、ファッションリーダーとして多くの女性を惹き付けている。彼女らの容姿が、美容やダイエットに強い関心をもつ青少年女子に「細身であることは美しい」という誤った美意識を植え付け、よくない影響を及ぼしている可能性があり、「やせ過ぎモデル問題」をめぐる議論が世界中で起きている。

TEXT MANUSCRIPT

2006 年 11 月にあるファッションモデルが拒食症で死亡したことから、やせ過ぎを原因とするモデルの摂食障害などの事例が注目を浴び、「やせ過ぎは不健康である」という考えが広まった。これに前後してスペイン政府は BMI (Body Mass Index) 指数 18 以下のモデルのファッションショーへの出演を禁止した。この動きにイタリア政府やオーストラリア政府が追随し、業界を巻き込んでモデルの BMI 制限のガイドラインを設置するなどした。フランス政府も規制強化に着手している。しかし、職種の商業性から規制に対する批判も少なくなく、アメリカ政府や日本政府は業界に任せる姿勢である。

本研究ではこれらを背景に、規制の基準 BMI 値 18 が一般の女子大学生の肥満意識等とどう関連しているのかについて検討する。

TEXT MANUSCRIPT

2. 関連研究

2003 年に根本ら^[1]が、若い女性の瘦身願望と摂食障害との関連性を指摘している。また、2005 年に中村ら^[2]は女子大学生のダイエット行動における変化ステージモデルと自己効力感との関係を明らかにし、ダイエット行動には特有の自己効力感が影響していると結論付けている。

3. 調査方法

さて、本研究のキー概念の一つである BMI 値は、体重と身長の関係から算出した人間の肥満度を表す指数で、 t を身長[m]、 w は体重[kg]とし、式(1)より算出される。

$$BMI = \frac{w}{t^2} \quad (1)$$

1999 年の日本肥満学会による肥満の判定と肥満症の診断では、BMI 値が 22 の場合を標準体重、25 以上を肥満、18.5 未満を低体重としている^[3]。本研究では次の 2 調査を行った。

調査 1：公開情報に基づいて、日本に活動拠点を置く 15～33 歳までの女性ファッションモデル 30 人の身長及び体重のデータを Web 上で収集し^[4]、そこから BMI 値を算出した。蛭原友里や山田優ら日本人モデルが中心で、外国人とのハーフが一部含まれているが、純粋な外国人は含まれていない。

調査 2：現役大学生を対象として肥満意識に関するアンケート調査を実施した。ある共学の 4 年制大学の特定の科目の受講生に対して無記名で調査を行い、同時に BMI 指数を算出するための身長と体重のデータを収集した。アンケート項目は以下の四つで、本研究では女子に注目しているため、女子大学生の回答のみを利用した。

- 1) 自分は太っていると思うか？
- 2) 他人が自分より痩せていることは羨ましいか？
- 3) 身長 (cm, 少数 1 位まで)
- 4) 体重 (kg, 少数 1 位まで)

1)と 2)では、「はい、いいえ」の二者択一の回答を求めた。4 項目すべてについて有効回答が得られたのは 33 人分である。なお、調査は 2007 年 4 月 10 日に実施した。

4. 調査結果

調査 1 の結果において、女性ファッションモデルの身長と体重の相関係数は 0.85 で、かなり強い正の相関関係が見られた。BMI 値は平均が 16.97 で最大値 17.93、最小値 16.04、標準偏差は 0.51 であった。全ての BMI 値が 16 以上 18 未満の範囲内に収まっており、日本においても一般に女性ファッションモデルは低体重でやせ過ぎであることが分かった。

調査 2 の結果より、33 人の身長と体重の相関係数は 0.46 とかなり低く、データの少なさやランダムサンプリングにほど遠かったことが反映されている。また、BMI 値の平均は 21.01、最大値 31.99、最小値 15.52、標準偏差 4.03 であった。BMI 値による肥満判定では、肥満 5 人、普通 20 人、低体重 8 人であった (図 1)。肥満意識を問うアンケート項目 1) については「はい」が 21 人、やせに対する羨望意識を問う項目 2) について「はい」は 24 人であった。

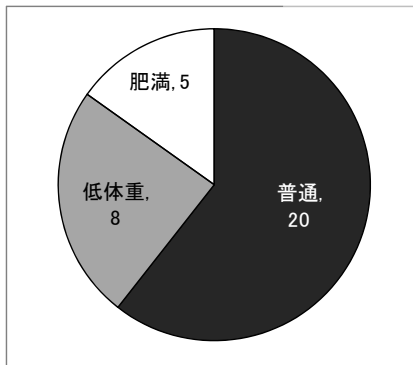


図 1 女子大学生の BMI 値判定内訳 (人)

TEXT MANUSCRIPT

5. 考察

まず、女子大学生 33 人の BMI 値とアンケート項目 2 点の回答について相関行列を求めてみた。回答は「はい」を 1, 「いいえ」を 0 とし、ダミー変数に置き換えている。結果は表 1 のとおりで、BMI 値と項目 1) の間に約 0.52、項目 2) とは約 0.37 という相関係数が得られた。BMI 値と肥満意識またはやせに対する羨望意識との間に、それほど強い相関はないと言える。

表 1 BMI 値とアンケート結果の相関行列 (1)

	BMI 値	1)	2)
BMI 値	1		
1)	0.512525	1	
2)	0.367678	0.668648	1

次に、BMI 値を肥満の判定基準に基づいてグループ分けを行うことにした。BMI 値が 25 以上の肥満グループとそうでないグループとである。前者を 1, 後者を 0 とダミー変数化を行った。この分け方を BMIa と名付ける。

さらに別途ファッションモデルの BMI 値が 18 未満であることに注目し、BMI 値が 18 以上のグループと 18 未満という

グループ分けも行った。前者を 1, 後者を 0 としている。BMIb と名付ける。

これら 2 種類の基準に沿ってダミー変数化された BMI データとアンケート 2 項目の回答についての相関行列を求めた結果が表 2 である。BMIa 基準に沿った結果は、実際の肥満と肥満意識またはやせに対する羨望意識との相関関係は非常に弱いというものであった。

表 2 BMI 値とアンケート結果の相関行列 (2)

	BMIa	BMIb	1)	2)
BMIa	1			
BMIb	0.178571	1		
1)	0.319438	0.559017	1	
2)	0.258775	0.690066	0.668648	1

これに対し、ファッションモデルの BMI 値が 18 未満であるという実態に基づく BMIb 基準では、やや意味のある相関係数が得られた。肥満意識について相関係数が約 0.56 とやや弱いものの、やせに対する羨望意識に関して約 0.69 とかなり意味のある正の相関関係が観察された。

よって、女子大学生が暗黙のうちに肥満の基準を BMI 値 18 に置いていることが伺える。すなわちファッションモデル並みのやせ形の体型でなければ、自分が太っていると意識し、自分よりやせている人を羨ましく思う傾向がかなり強いということである。

TEXT MANUSCRIPT

6. 結論

以上より、身近な事例をみる限り、女子大学生の体重をめぐる肥満意識は、女性ファッションモデルから強い影響を受けていることが明らかになった。このような悪影響を封じる対策を講じていくためには、発育期の若年女子についてもこの傾向が観察されるのかどうか調べることも、もっと多数のデータをランダムサンプリングにより収集することが必要であろう。これを筆者の今後の課題としたい。

TEXT MANUSCRIPT

参考文献

- [1] 根本橋夫, 柴田布美枝, "身体イメージと痩身願望および摂食障害的行動", 東京家政学院大学紀要 第 43 号, pp. 21-26, 2003 年。
- [2] 中村小百合, 任和子, 生田美智子, 須田恵子, 安江智美, "女子大学生のダイエット行動における変化ステージモデルと自己効力感の関係", 滋賀医科大学看護学ジャーナル 3(1), pp. 64-69, 2005。
- [3] "あなたの肥満度は?", <http://www.ue-mura-clinic.com/dmlecture/bmi.htm> 情報取得日 2007/04/24。
- [4] "Category:日本の女性ファッションモデル", <http://ja.wikipedia.org/> 情報取得日 2007/04/20-21。